

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

ロータリーを实践し  
みんなに豊かな人生を

第 2501回 例会  
平成25年8月2日(金)  
天候 晴れ  
合唱 君が代  
奉仕の理想  
四つのテスト

会長 渡辺 久恭

幹事 石田 浩二

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原

TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

### 会長挨拶

先週7月26日のガバナー公式訪問は皆様本当に有難う御座いました。

また、ガバナー補佐の質問にお答え下さった方々におかれましては、一週間前いきなりのお願いに対して、あそこまでしっかりお答えして頂けるとは思っていませんでした、今回のガバナー公式訪問で私は、会長でありながら、湯河原ロータリークラブの歴史や今まで行って来た事業に対して全く勉強不足だったことに痛感致しました、この機会に、先週発表して頂いた資料をいただいて、勉強したいと思います。

次の日、補佐から電話を頂き、湯河原ロータリークラブはすばらしいと、お褒めの言葉を頂きました。

本当に、有難うございました。

先ほど、理事会を開きましたので報告いたします。

議題は

1. 次年度補助金について  
本年度は見送ることに決定
2. 立山ロータリークラブ25周年式典訪問について  
電車で行くことに決定  
例会扱いにしない事に決定
3. 地区大会について  
例会扱いにしない事に決定
4. 協賛金の拠出(きよしゅつ)について  
観光協会納涼縁日協賛金  
MOA児童作品展協賛金  
承認
5. その他  
2) ペットボトルキャップ回収の件  
社会奉仕委員長の石川さんを中心に宜しく、  
お願い致します。

### 幹事報告

ガバナー

1. 「2,014-15年度財団補助金管理セミナー」開催のお知らせ

日時: 8月24日(土) 13時~17時

場所: 第1相澤ビル6階「会議室」

回答期限: 8月12日(月)

2. 2016年規定審議会代表議員候補者提案に関する告知  
貴クラブに最適任の会員がおりましたらガバナー事務所へ提案して下さい。

回答期限: 10月1日(火)

### スマイルBOX

ご婦人誕生日 8月2日深澤昌光(加代子様)  
渡辺久恭君・石田浩二君

先週のガバナー公式訪問、皆様ありがとうございました。

神谷一博君

理事会に遅刻しました。君が代のスタートが遅れました。

土屋一弘君

日本三大舟祭りの貴船まつりが無事終了しました。

夏の観光祭の開催を祝して全員でスマイル

出席報告	ゲスト 0名	ビジター 0名	会員 24名
	欠席 3(免除者1名)		出席率 86.96%
	前回の修正出席率 100.00%		前々回の修正出席率 95.83%

隈研吾建築の世界

高橋延幸君

○隈研吾の紹介

建築家。神奈川県横浜市生まれ。1979年（昭和54）、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。1985年から1986年まで、コロンビア大学建築都市計画学科客員研究員。1987年、空間研究所設立。1990年（平成2年）、隈研吾建築都市設計事務所設立。2001年より慶応義塾大学理工学部教授。

○建築家として

1980年代は過去の建築を引用するポスト・モダンのデザインを大胆に展開した。建築史再考（1989、東京都）、RUSTIC（1991、東京都）。ドーリック（1991 東京都）などの連作は、西洋建築の様式を記号とみなし、それらを再構成した商業ビルである。M2(商業ビル。1991、東京都)は、こうした手法の到達点であり、巨大なイオニア式の円柱、ガラスの箱、ロシア・アバンギャルドの建築家イワンレオニドフ(1902—59)のプロジェクトなど、古典主義からモダニズムまで、さまざまな建築のポキャブラリーを一つの建築にちりばめた、隈は、ランダムなコラージュの操作により、カオス的な状況を生み出し、建築における主体を消去すること（建築作品が権威ある建築作家によってつくられるものであることを希薄にすること）を提唱している。M2は、バブル期の東京を象徴する建築としてもみなされた。また伊豆の風呂小屋（1988）のように、形態が破裂したディコンストラクティブズム（近代建築のデザインやその手法、枠組みから脱却し、破壊や切断、故意に歪めたデザインなどを施した建築の総称。代表的な建築家にピーター・アイゼンマン、フランク・ゲーリー、ザハ・ハディドなどがいる）的な傾向の作品も手掛けている。

1990年代以降はポスト・モダンの表現と決別し、正反対の印象を与えるミニマルなデザインを追求するが、建築家として建築に向き合う姿勢は変わっていない。例えば環境から物体を突出させたオブジェクト型の建築を批判し、「反オブジェクト」の概念を掲げる。亀老山（きろうさん）展望台（1994、愛媛県。JCDデザイン賞）では階段を山に埋め込み、見えない建築をめざした。

ゲストハウス「水/ガラス」（1995、静岡県。AIA（アメリカ建築家協会）デュポン・ベネディクタス賞）は、透明なガラスに包まれて鑑賞者が水と溶け合うような空間を生む。

○隈は、「建築であること」を消していくコンピュータの可能性にも注目している。慰霊公園のプロジェクト（1998、群馬県）は、地面を掘り込んだ庭を歩くと死者の記憶にアクセスできるというリアルとバーチャルな空間をつなぐ試みである。愛知万博のプロジェクトでも、Googleを被（かぶ）って森を歩くことにより、森をそのまま自然博物館に転換することを提案した。

デザインの手法としては、ルーバー（日よけ）の多用と素材の実験的な使い方が特筆される。那珂川（なかがわ）町馬頭（ばとう）広重美術館（2000、栃木県。村野藤吾賞、フィンランド・国際木の建築賞）は、屋根も壁も細かい杉のルーバーにより構成される。石の美術館（2000、栃木県。イタリア・国際石の建築賞）は、石を薄く切ったり、多孔質な石の壁をデザインすることで、重くなりがちな石を軽いものとして扱う。GREAT（BAMBOO）WALL（2002、北京）は、粗い竹のルーバーの建築であり、弱い素材を積極的に用いている。PLASTIC HOUSE（2002）は、FRP（繊維強化プラスチック）製の細かいルーバーやFRPパネルの）半透明の壁が、自然と人工の間のような空間をつくる。

○そのほかの主な建築作品に檜原（ゆすはら）町地域交流施設（1994、高知県。グッドデザイン賞施設部門受賞、新しいデザイン賞大賞）、商業施設「川/フィルター」（1996、福島県）、森舞台/宮城県登米（とめ）市伝統芸能伝承館（1996）日本建築学会作品賞）北上川交流館水の洞窟（1999、宮城県）など。著書に『グッドバイ・ポストモダン』（1989）、『10宅論』（1990）、『建築的欲望の終焉』『新・建築入門』（いずれも1994）、『建築の危機を超えて』（1995）、『隈研吾読本1999』（1999）、『反オブジェクト』（2000）などがある。